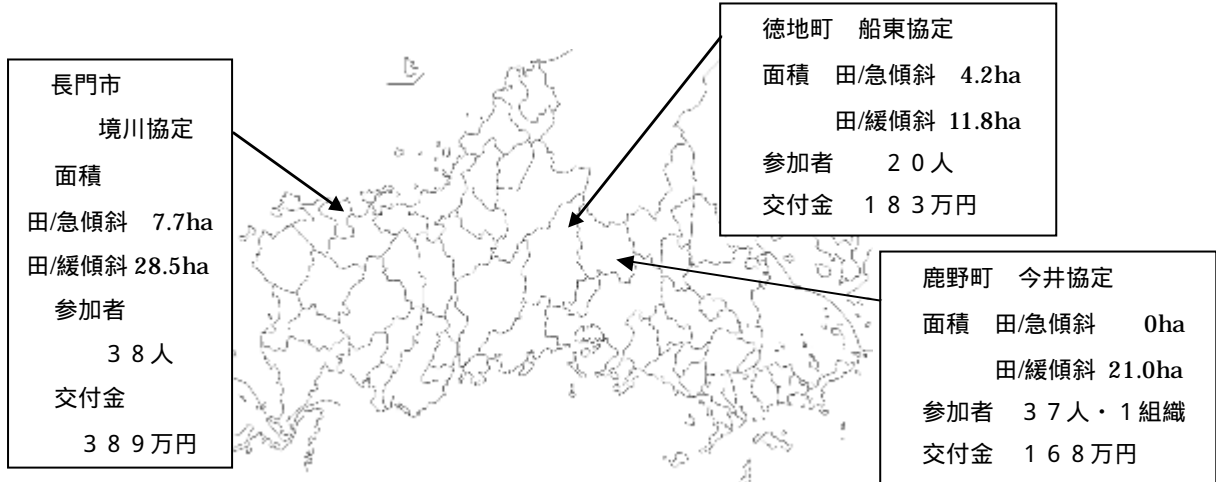


集落協定 かわら版 (第4号)

(平成15年3月31日 山口県農村振興課)



ソバを通じた都市農村交流

・・・徳地町船東(ふなとう)協定・・・

徳地町船東協定は、町中心部から北へ8km、国道489号線から山間に少し入った所にあります。代表の井原英夫さん(69)から、ソバを使った都市との交流を紹介していただきました。

平成12年に協定を締結されたとか。

- 「ちょうど基盤整備が完成する頃でしたから、これは良いと思いましたね。ただ、誰が役員をするかなかなか決まらなかったんで、決断したのは町内で一番最後でしょう。基盤整備の延長で制度に取り組んだという感じですね。」

基盤整備という下地があったわけですね。役員はどうなっていますか？

- 「代表者が正副2人います。会計係、水路農道係、オペレーター係、イベント係、その他の役員をあわせて10人です。」



(代表の井原さん ほだ場にて)

イベント係とはユニークですね。ソバを通じた都市との交流をされているとか？

- 「平成12年に景観作物としてソバをまきました。収穫せず鋤込んだところ、友人が『もったいない。こんど収穫する時は、一緒にやらせてくれ』というんです。それで2年目からは、友人が防府市から15人くらいの仲間を集めてくるので、播種や収穫、収穫祭までやるようになりました。収穫祭では、男性ははぜかけ、女性はおにぎりやきのこ汁をつくり収穫を祝うんです。」

立派な都市農村交流ですね。”見る”だけになりそうな景観作物が、交流に発展したんですね。他にも取組があるとか？

- 「基盤整備の関係でトラクターと田植機を共同購入しました。オペレーターを決めて作業をします。貸し出し用の防除機もあります。」

なるほど、農業生産活動も順調のようですね。交付金の使い途はどうでしょう？

- 「貸し出し用の草刈機を年間4台ずつ買っています。他には景観作物作付けの借地料、ソバの種代や収穫祭経費、協定参加者の傷害保険にも入っています。」

「今年は、桜の苗木や植付け費にも使います。蛍が舞うような地域にしたらどうかとか、あじさいを植えてもいいといったアイデアが出るので、今年は手始めに、桜を50本植えたんです。」

傷害保険の加入など、他の協定にも参考になりそうです。さて、このパワーはどこから出てくるのでしょうか？

- 「道端で話をしたり、一杯やる時にこういう話が出てきます。今年は研修旅行にも行きました。昔、椎茸が良かった頃はそういうこともよくありましたけど。」

なるほど道沿いには、あちこちに椎茸のほだ場が見えます。船東は昔から林業が盛んで、生産グループの活動も長いとか。椎茸グループの活動があり、基盤整備の取組みがあり、そして集落協定があるんですね。

最後に制度への思いや今後のことについて聞いてみました。

- 「役員は大変だが、皆よくやってくれるし、役場の人もいろいろと世話をしてくれます。本当に良い制度で十分活かさせてもらっています。長く住むところですから、良

い環境にしたいし、都市農村交流で都会の人に田舎を満喫してもらうようなイベントがこれからもできればと思っています。」

ソバの小さな花が咲かせた、大きなプレゼント。ふるさとへの思いはこれからも変わることなく息づいていくでしょう。(柳田)

計画的に生産基盤を整備

・・・長門市境川(さかいがわ)協定・・・

長門市境川協定は、国道191号線沿い、市の中心部から油谷町方面へ向かう途中にあります。しっかりした運営体制と計画的な事業実施の状況について、ご紹介をいただきました。

代表の岡崎俊夫さん(71)と事務担当の辻野史郎さん(54)を訪ねました。

集落協定の話があった時、5年間の責任が出てくるので慎重な意見もあったそうですが、ほどなくとりくむことになったとか。

- 「圃場整備はしていましたが、ため池や水路の改修、農道舗装など、まだまだやることが多くありました。経費的な問題から思うようにできなかった事業を、協定でやることにしたんです。」



(活動写真がいっぱい)

協定では、初めに、役員体制をしっかりとつくることに力を注いだそうですね。

- 「交付金は公金だし、参加者の納得が得られるような運営をしようと思いました。昔の経緯をよく知る人に顧問になってもらったほか、農事組合とも連携ができるように役員を兼ねてもらっているんですよ。」

協定の運営について、もう少し教えてくださいませんか？

- 「年間の集会は、総会が1回、役員会が6回ぐらいです。」Aの座談会（2回）も活用しています。」

「水路改修や農道舗装などの事業は事前に要望調査を行い、検討結果はきちんと回答するようにしています。集会での説明の他に、情報は全て班毎に回覧しています。もちろん『かわら版』も回覧していますよ。」

農道舗装は、協定参加者の皆さんで実施されたと聞きましたか。

- 「5年間に水路改修2000m、農道舗装600mを計画していますが、経費節減のために農道舗装は業者に頼まずに出役方式でやっています。素人とは思えない出来でしょう。」



（代表の岡崎さん（右）事務担当の辻野さん（左） 舗装した農道にて）

農道の出来も素晴らしいですが、参加者

の皆さんの協力体制も素晴らしいですね。

- 「将来の投資には躊躇しがちな農家ですが、この制度は、農家に生きる力を与えてくれましたね。荒廃地で耕作を再開したところもあります。地区内に耕作放棄地は無くなりましたよ。」

公金をもらっているということと、お互いが協力しようという気持ちが重なって、意識に大きな変化が見られるそうです。

制度を十分活用されているようですが、将来に向けての課題はありますか？

- 「制度終了後に不安もあります。地区内には比較的后継者が多く残っているので、今のところ安心ですが、『若い担い手の育成』が今後の課題になりますね。」

5年間を見通したの事業計画や情報の共有などのしっかりした運営体制は、大変参考になりました。（西村）

集落営農組合を設立

・・・鹿野町今井（いまい）協定・・・

鹿野町今井協定は、町中心部から西に約2km、中国縦貫道の鹿野サービスエリア周辺にあります。1年前に営農組合を設立されたということで、代表の白井賢さん（57）を訪ねご紹介を頂きました。

協定を締結された当時は圃場整備中だったそうですね。

- 「当時は圃場整備（H11から面工事開始）が進行中だったこともあり取組を見送るような雰囲気だったのですが、締結期間が延長されたので、その時に決断しました。」

「取組みを決めたのは遅かったのですが、その後は早かったですよ。決断と同時に役員も決めました。それまで、圃場整備の話

し合いを続けていたので、体制づくりの苦労はなかったですね。」



(代表の白井さん)

今井集落では、営農組合を設立されたと聞きましたが？

- 「平成14年3月に営農組合を設立しました。この話は圃場整備を始める頃から出ていたのですが、集落協定の締結などを通じて、内容が固まってきました。」

「営農組合は機械は持っていません。アンケートをしたらみんな機械を持っているので、今は、使える物は使おうということになっています。」

営農組合では、どのような活動をしてられるのですか？

- 「個人の機械やJAの機械を使って、地元オペレーターが受託作業を行っています。オペレーターは今のところ3人ぐらいですが、予備軍を入れるともう少し多くなります。みんなよく協力してくれるので、助かっています。」

集落協定では、どのような活動をしてられますか？

- 「草刈りや水路の管理を行う他に、防除の効率化を進めるために、集落協定から外れた農地も含めて、JA営農センターが行う無人ヘリ防除の利用をすすめています。」

散布経費は、全額共同活動用に充当した交付金からいったん支出し、後で集める個

人負担金は営農組合の積み立てに回しているそうです。

「営農組合の運転経費も必要だし、将来、機械を購入すればその資金にもなります。」

大豆振興のために独自の助成もしているとか。営農組合と集落協定は、まさに一心同体といったところですよ。

その他に共同取組活動がありますか？

- 「JAが肥料農薬の大口の予約注文者に対して割引を行っているので、営農組合の活動の一環として参加者の注文をまとめています。」

田植えや稲刈りなどの機械作業の共同化はよく聞きますが、肥料農薬の共同注文とは参考になります。



(今井集落)

「年をとっても営農組合がやってくれるから安心」という声も聞こえてくるそうです。集落全体を見渡した営農活動がしっかりと根付こうとしています。発展への息吹を感じました。(西村)

~~~~ 編集後記 ~~~

協定締結をきっかけに、各地で様々な活動が行われています。

制度が4年目を迎えた今年は、各地の活動の情報交換会を開催し、一層の活動充実を目指したいと思っています。(西村)